

外国語教育メディア学会（L E T）関西支部中学高校授業研究部会・  
京都教育大学英語の教え方研究会 主催

## 2018年度 5月例会のご案内

日 時： 2018年 5月13日（日）13：30～17：00

会 場： 京都教育大学 CALL教室（1号館B棟4階）  
（アクセスは<http://www.kyokyo-u.ac.jp/>から）

参加費： L E T会員・・・・・・・・・・・・・・・・・・無料  
京都外国語大学より良い英語教育を考える会会員・・・・300円  
学生・・・・200円  
一般・・・・500円

問い合わせ先： 西本有逸（京都教育大学） yuitsu@kyokyo-u.ac.jp  
鈴木寿一（京都外国語大学） juichisuzuki0011@gmail.com

13：10～ 受付  
13：30 開会

パフォーマンス評価：Why & How

京都教育大学 西本有逸

今回の例会では、パフォーマンス課題・評価について英語教育学ではなく、より専門性が高い教育方法学の樋口とみ子先生をお招きしました。まず、露払いとして西本がWhy & Howについて、京都大学大学院教育学研究科 E.FORUM の資料を用いて説明をいたします。さらに、京都教育大学附属学校の実践を紹介いたします。次に樋口先生のご講演、続いて全員でディスカッションをします。ディスカッションでは、パフォーマンス課題・評価がどのように指導を後押しするのか（バックウォッシュの問題）、本当に生徒の英語学力を引き上げるのか、思考力や表現力が身につくのか、さらには資質・能力・コンピテンシーと教科の本質等について議論を深めたいと思います。

### 途中休憩

パフォーマンス課題の今後を考える

京都教育大学 樋口とみ子

最近では、学校教育において子どもたちの学力を評価するための新しい方法として、パフォーマンス課題への注目が高まりつつあります。基礎的・基本的な知識や技能を習

得したかどうかにとどまらず、子どもたちの思考力・判断力・表現力等を評価することができるものとして、パフォーマンス課題の実践が広がりはじめています。今回は、このパフォーマンス課題の意義と今後の課題について考えてみたいと思います。具体的には、まず、パフォーマンス課題の特徴について、登場の背景を踏まえて概観します。次に、最近の具体的な事例を取り上げ、英語科におけるパフォーマンス課題と評価指標（ルーブリック）の作り方について検討します。その後、パフォーマンス課題をめぐる国内外のさまざまな議論等も参照して、意義と今後の課題を考えます。

17:00 閉会

会場までのアクセス：

1) 京阪電車利用の場合

- ・淀屋橋、天満橋、京橋からは、特急あるいは快速急行で丹波橋下車、普通あるいは準急電車に乗り換え、墨染駅下車（所要時間約40分）。徒歩約8分。
- ・四条からは、普通あるいは準急電車で墨染駅下車（所要時間約15分）。徒歩約8分。

2) JR京都駅よりJR奈良線利用の場合

JR京都駅でJR奈良線に乗り換え、普通電車でJR藤森駅下車（乗車時間約8分）。徒歩約3分。

3) 奈良方面より近鉄電車利用の場合

西大寺にて快速または快速急行に乗り換え、丹波橋下車。京阪本線普通あるいは準急電車に乗り換え、墨染駅下車（乗車時間約40分）。徒歩約8分。

**お願い：** 最近、メールアドレスを変更される方が増えておりますため、案内をお送りしても100名分以上が戻って来ます。今後、メールアドレスを変更される場合は [juichisuzuki0011@gmail.com](mailto:juichisuzuki0011@gmail.com) までお知らせください。

今後の予定：諸般の事情で日程・会場が変わる可能性もあります。

6月 10日（日）例会 於）京都教育大学

平凡から非凡をめざす帯学習

「見える化」で始める英語学習：Let's visualize!

京都教育大学 西本有逸

滋賀県立高島高校 中西勝弘